

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700349		
法人名	ユニマツリタイアメントコミュニティ		
事業所名	嵯峨野ケアセンターそよ風 2F		
所在地	京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町19-1		
自己評価作成日	令和5年4月17日	評価結果市町村受理日	令和5年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2670700349-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2670700349-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当センターは京都嵐山から北、自然に囲まれた静かな地域に位置し平安より天皇に愛された嵯峨野にございます。ゆったりと自由な時間・穏やかで安らぎのある生活を尊重し、お客様の持つおられる能力を考慮し、一人一人に合った支援をする事を職員間のチームワークを活かし心掛けております。コロナにより地域のイベントが中止されていましたが清涼寺のお松明、嵯峨野まつりの見学、ボランティアにて音楽鑑賞等のイベントも再開し地域にも密着しております。お客様の日常生活上の刺激、喜楽になり生活の質の向上に繋がっております。感染予防対策としては手洗い、消毒、マスクの着用、お部屋の換気等できる事は行い感染予防として努めております。今後もお客様に穏やかに過ごしていただける様、楽しく過ごしていただける様チーム一丸となって努めて参りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	嵯峨野独自の理念があり、常日頃より朝礼時に唱和し意識を高め共有しております。業務中にも職員全員に関連付けて話す等しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に長年所属しております。イベントや行事の手伝い、協賛しております。(回覧板新調、地図作成、学童用MAP作成、献血等)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括開催(書面、ZOOM会議)参加し発言、地域での嵯峨野CCの力を活かすようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しております。サービス提供の内容、事例などを報告し共有をしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定められた書類提出は確実にいき、運営推進会議の議事録をご担当者様にお会いし直接渡しております。その都度情報交換を行う等の連携を意識しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のみ防犯の観点から施錠しております。他は拘束となる事項については、施設として行わないと定めております。職員にも全ての拘束について行わない様に研修を実施。常に共有、意識するようしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を開催しております。ユニットの現状、悩みなどを含め話し合い。議事録を作成し回覧しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度使用の方が増えてきております。ご家族からも相談あり、情報に触れる機会また後見人様との話し合いも増えていきます。日常生活自立支援事業においては社会福祉協議会の専門員と連携し必要としている方へ認知症対応型生活予防介護を知っていただき、支援の一助になる様にしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長が基本契約や解約などに参加し話し合いの時間を含め取って下さっております。管理者、CM、フロアリーダーが参加し共有事項としております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	センター長は玄関対応を多く行い、日常的にコミュニケーションをとっています。管理者や職員から些細な用件もしっかり伝え連絡し情報交換し信頼関係の構築に積極的に行っております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長、管理者による個々への声掛けを基本とし話しやすい、声をかけやすい環境作りに努力しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定期間毎の考課や契約更新時にセンター長含めて多人数による面談が苦手な方にも、個人面談を行いキャリアアップや情報発信しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三役会議にて共有し状況確認を行い、方針、課題を個々の職員に合わせ常に修正しております。社内研修も新人、中堅職員と細かくカテゴリー分けしており、無料でURC主催の実務者研修受講も可能です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自習生の受け入れや外部からの研修・会議を始め、営業、定期訪問などを行い情報交換しております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問面談やご家族様と見学に来ていただき話し合いを行うようこちらから積極的に発信しております。時々に見せていただける表情、話し方、要望などを汲み取り、不安解消に努め実際のサービス提供に繋げております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が認知症対応型生活予防介護を知らない事が多く、傾聴しつつ、分かりやすく説明し、知っていただき、入居についての不安や悩みを聞き、入居云々抜きでなんでも悩みを話していただける場を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型生活予防介護の初期理解からご本人が本当に必要としているサービスなのか話し合い、現在使える別サービスも併せて発信させていただいております。ご本人、ご家族様との意思統一を図り、ご提案もさせていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々気づきを基本とし、残存能力の維持、少しでもできる事を職員全体で共有し支援していき、自身で行うという観点を重要にしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが明けて面会、外出などご家族様とお会いする機会、お話しする機会がとて増えています。お客様、ご家族様から喜びの声を沢山いただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元住まわれていた場所に行かれたり友人知人との面会を行っております。またご家族様との面会時や受診後に食事やおやつと一緒に食べていただくことを推奨しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の個々のコミュニケーション能力、相性を鑑み席位置を決め、穏やかに過ごせる環境を、完全ストレスフリーではなく、人とのふれ合いでの多少のスパイスも大切にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り対応をさせて頂いたお客様のご家族が、職員の支援を見て自発的に地域支援に貢献したい等の手紙を書いて送ってくださったり、家族様同士の繋がりでの紹介で御入居されたりしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のヒアリング、入居後の職員全員のモニタリングと共有、そこから思い、以降を汲み取るように努めています。また、日常的にケアカルテや申し送りノートを使用し情報共有を重視しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりケアマネージャ、ご本人様、ご家族様既存利用サービス事業所様からの聞き取りをし情報を取り纏め、必ず職員間で共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の気付きを大切に些細な事でも職員間で申し送りを活発に行い毎月のカンファレンスにて評価分析し再アセスメントを繰り返し、お客様の状態に応じた支援がチームとして出来る様に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標を3～6ヶ月にせっていし期間に合わせ介護計画の見直しを行っております。モニタリングについてはケアカルテと同期し毎日行います。介護計画見直し時には、往診主治医の意見を参考にしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテ記録、申し送りノートを使用し、日頃の気付きを重複し職員間で共有し対応しております。状態変化が大きくある場合等個別に簡易モニタリングファイル作成し、個別に特化する方法もとっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、昔なじみの医者への利用、定時電話連絡、後見人についての相談、金銭管理等相談を受け、嵯峨野CCで出来る範囲でご協力させて頂いて居ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍だったため地域の方との関りは減っており施設内や近隣の自然環境を活かした暮らしが中心となっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、医療連携、かかりつけ医の継続可能な事を説明した上で、協力医療機関への変更を選択肢として挙げております。専門医受診継続については、嵯峨野CCとご家族と分担し協力体制を作るなどしております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム単体の為、常勤看護師はおりません。訪問看護と連携しており24時間体制での相談を可能としており、毎週土曜日の訪問を受け情報共有相談を確実にしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時のサマリー提供、病院医師、看護師、ソーシャルワーカー、ご家族様、嵯峨野CCと情報交換密に行い、治療内容経過確認を正確に行い早期の退院を実現する為嵯峨野CCより積極的に各位に発信し、体制を整えて受け入れております。嵯峨野CC歯退院受け入れ時の対応が早いと評価もいただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応・急性期における医療連携指針」を作成し意向の確認及び同意を確実に得ております。また、看取り実績も増えており、終末期などの研修時には、事例の共有、看取り時、看取り後の職員へのケアについても話し合いを設けております。実際、終末期の時には、ご家族様とその都度、相談の機会を設けております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル定めており、事故や急変を想定した研修も行ってあります。実際の事故発生時48時間以内に各関係部署へ報告、連絡、指示をいただき、事故報告者作成、カンファレンス開催し、対応や行動がどうだったか共有し蓄積、適切な対応が出来る様に訓練しております。(重大事故時は24時間以内です。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと年2階、日中、夜間を想定した訓練を実施しております。自然災害時の行動マニュアル作成しており、研修も行い、各種備蓄品もあります。(非常電源もあります。)		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画作成、コンプライアンス担当へ提出、個人情報、プライバシー保護研修実施しております。トイレ誘導、排泄、入浴時、居室での更衣、オムツ交換時等プライバシーに配慮したケアの意識、不適切な声掛け支援がないか、相互に声かける環境作りに努めております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様を中心に思い、意思を汲み取り、出来ない事を手伝うように心がけ日常生活での自立を支援し、自己選択、自己決定を大切にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人一人の生活リズムを重視尊重しております。また、共同生活ということを考え嵯峨野CCでの生活時間サイクルを提供し、ある程度籠りきらないよう、廃用性にならないよう、昼夜逆転にならないように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の好みに合った服や化粧品、髭剃り等、入居時、入居後もご家族様にご用意いただき支援させていただいております。月に1度の訪問理容もご利用させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前までは、三食手づくりしていましたが、現在は完全調理品となっております。メニューも豊富で1日の摂取カロリーも決まっております。バランスの良い安定した食事を提供できるようになりました。食器を拭いていただく等手伝っていただいております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の嚥下能力、体重、既往歴に合わせた食事量、形態(刻み、ミキサー、ムース食等)やトロミの強度を変え提供、水分が取りにくいお客様には、OS1やポカリ、カルピスゼリーや白湯ゼリー等で対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	西澤歯科と提携連携し月2回往診いただき歯科医師、歯科衛生士の指導の下、お客様の口腔ケアを実施しており、口腔衛生加算も取得しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄において、オムツ使用を極力避け排泄時間を記録し、パターンを把握し、適宜にトイレのお声がけ誘導によって尊厳と羞恥心に配慮しつつトイレでの排泄支援に努めております。寝たきり、座位が取れない状態時にオムツの使用をしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動と介助にて歩けるお客様には、極力車椅子の使用をせず歩行支援を行っております。一日かけて水分をしっかりと摂取していただき便秘解消を心掛けております。下剤も医師の指示の下併用しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、お一人に対し週に二回を基本に、お客様の要望や様子を伺い、失便時、臨機応変に対応しております。季節のお風呂、好みや皮膚症状を考えソープを使用しております。ヒートショックにも注意を払いながら入浴を楽しんでいただいております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様自身で選択し居室にて休憩しておられます。(居室移動の声掛け含む)能動的にされないお客様には、声掛けし居室等誘導や食後等タイミングを見計らい休憩誘導しております。入床、起床も同様です(時間は生活リズムが崩れない範囲で個々に合わせております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院内、外調剤担当より薬剤が届き処方箋を受け取りお客様一人づつの説明を受け記録と共有を行い、処方箋はファイリングし管理し確認が簡易にできるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の残存能力を把握し思いや意向を汲み取りつつ得手不得手を考慮し個別にて支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じ、お日様を浴びる事でセロトニンが出る等を考え外気浴を積極的に行っております。近隣へのドライブも各フロアにて行っております。(受診の帰りも広沢の池など寄って帰ります。)ご家族様と外出、外食されて帰って来られるお客様もおられます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は入居前よりご家族と相談させていただきお預かりしておりません。急な現金使用の際は施設にて立替しキーパーソン様ご家族様へ請求となっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能動的な電話使用は、ありませんが、電話の要望にお応えしています、手紙を書かれる方もおられます。受動的には、LINEテレビ電話、普通電話が多くあり、手紙も多く届き楽しみにされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒さ暑さありますが、一定時間毎に換気を欠かさず実施しています、空調も管理し冬季の居室、リビングの加湿を行い過ごしやすい環境創出、また嵯峨野CC日当たりも良く自然光と暖色の内装でやさしく温もりある空間となっております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアお客様個々と関係性に考慮した席配置と自由に座っていただく為のソファ配置、大きな窓から自然の眺めや大きなテレビを楽しんでいただけます。また気心しれた仲のいいお客様同士が過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様へなるべく馴染みの品を持って来て下さるようお願いしております。安全面の配慮を行い、安心する居室を少しずつ作って頂いています(お仏壇持ち込まれる方もおられます)。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに基づいた施設作りとなっており、段差少なく手すり配置、トイレも広く設計されています。(昔のユニバーサルデザインか新設の福祉施設よりやや見守りづらい作り浴槽の段差もあります。)		